スクール便り

73年目を迎えた環境土木科が果たすべき役割

―福島県立福島明成高等学校 環境土木科―

1．学校紹介

本校は，明治29年に福島県蚕業学校として福島市渡利に創立し，平成27年度，創立119周年を迎える伝統校である。幾多の変遷を経て，昭和23年の学制改革により福島県立福島農業高等学校に，さらに昭和24年に福島県立福島農蚕高等学校と改称した。昭和41年には文部省指定の自営者養成農業高等学校となり地域からの熱い期待を受け，現在の福島市永井川の地に全面移転した。

平成8年には，創立100周年記念事業が行われた。これを契機に平成9年度に，魅力ある農業高校を目指し校名を福島県立福島明成高等学校と改称し，大幅な学科改編を行った。昭和17年に創設された農業土木科はこの学科改編により，現在の環境土木科となった。

学科改編後は，各学年5学科6学級（生物生産科2学級，生物工学科1学級，環境土木科1学級，食品科学科1学級，生産情報科1学級）となり，生徒は現在707名（男子311名，女子396名）在籍する。

また部活動では，例年馬術部，ボクシング部，ウエイトリフティング部が全国大会に出場している。

2．履修する専門科目

平成27年度実施：環境土木科

（ ）は単位数，（選）は選択科目

1年次：農業と環境（4），測量（2）

2年次：課題研究（1），総合実習（2），
農業情報処理（2），農業土木設計（2），
農業土木施工（2），測量（2），
造園計画・社会基盤工学・普通科目（選2）

3年次：課題研究（2），総合実習（2），
農業土木設計（2），農業土木施工（2），
測量（2），水循環（2），
造園技術・製図・普通科目（選2），
他学科科目・普通科目（選2），
環境緑化材料・他学科科目・普通科目（選2）

選択の単位数は，2年で2単位，3年で6単位である。

3．福島県の現状と環境土木科の進路状況

あの未曾有の東日本大震災ならびに東京電力福島第1原子力発電所事故による放射能問題などで，今もなお12万余の人々が県内外に避難している。4年が経過したが，福島県の現状は，住民の生活をはじめ，復旧・復興工事，農畜産物などの放射能汚染対策は遅々として進まず，原子力発電所事故の影響はいまだ深刻な状況が続いている。復興するには，まだ長期間を要

写真-1　福島県立福島明成高等学校

写真-2　2011年3月11日，震災直後の本校体育館

写真-3　地割れと液状化現象

すると思われる。

このような状況下，昨年度の進路状況を見てみると，建設関係への進路が77％（内訳：就職90％，進学10％）と，専門性を生かした進路選択者が多く，早期の専門性を生かした各指導が，専門分野への進路選択につながったと思われる。

4．専門性を生かした教科指導について

専門科目への意識を高めるために，本校では実習と資格取得に力を入れて指導している。

(1)　導入（1年次）「農業と環境」で2単位を測量実習。残り2単位は，「製図」・「造園」・「農業基礎」のローテーションを組み，実習を行っている。この実習の中には，全員が受験する危険物取扱者試験の講習やトレース技能検定試験に向けての練習も含まれている。また，早い段階での土木への関心や意欲を促すために，1学期に建設工事現場見学会を実施している。夏期・冬期の休業中には，建設機械講習も実施している。

(2)　展開（2年次）「課題研究」で建築CAD検定試験に向けての練習を行っている。「総合実習」では，「測量」・「施工」・「水理・土質」・「造園」のローテーションを組んでいる。

また各協会の協力のもと，「土木」・「測量」・「造園」に分かれ，5日間のインターンシップ（現場実習）を実施している。終了後に実習をとおして学んだことを，1冊の冊子にまとめ，各協会，各企業へ礼状とともに送付する。また，3学期には，次年度この実習に参加する1年生の前で，プロジェクターを使用した報告会を行っている。生徒たちは，指導性や社会性が育まれる。

写真-4　インターンシップ（現場実習）

(3)　まとめ（3年次）「課題研究」では，「2級土木施工管理技術検定（学科）」・「建築CAD検定3級」・「造園技能士3級」および「2級造園施工管理技術検定（学科）」の中から，自分の進路などを考え，希望する資格取得の時間に充てている。また，「総合実習」は「測量」・「施工」・「水理」・「造園」の専攻実習を行い，卒業論文の提出や発表会を行っている。

そのほか，土木に関するイベントへの参加や造園実習での県立公園等の刈込み実習など，積極的に参加し，生徒に実践的な態度を身につけ，技術を適切に活用できるようにしている。

写真-5　施工班による専攻実習

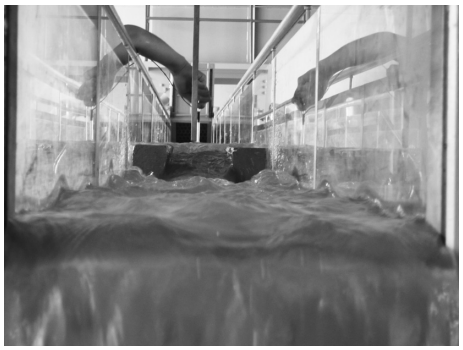

写真-6　水理班による専攻実習

5．おわりに

将来の地域の安全・安心を確保するための社会基盤整備，さらに県土の早期復旧・復興を推進する上で，若手を中心とする人材確保は，福島県にとって必要不可欠である。したがって，73年目を迎えた，本校の環境土木科が地元福島の復旧・復興のために果たすべき役割や使命感は大きい。これからも専門的な知識や技術を学び，地元で活躍できる，リーダー的な存在の土木技術者の育成を目指していきたい。

（福島県立福島明成高等学校 環境土木科
教諭　正木進作）